

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
芸術	音楽Ⅰ	2単位	1年次		
教科書	Tutti+				
副教材等	MUSIC NOTE				
① 科目の目標(学習指導要領)					
音楽の諸活動をととして音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
音楽についての基礎的な知識を習得すること。	音楽の歴史的・文化的背景を知覚し、生み出される音楽を感受すること	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
楽器演奏についての基礎的な技術を習得すること。	習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	生活の中で音楽を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
自ら感受したイメージや気持ちを、言葉で表すこと。	お互いの価値観や個性を認め、音楽の多様性を感じ取ること。	生涯をととして音楽を愛し、親しむ心を育む。
音楽の歴史的・文化的背景を理解すること。	鑑賞によって他者の良さを見つけ、自己の課題への創作意欲につなげられる。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4, 5月	歌唱 リズムアンサンブル 楽典 ソルフエージュ	校歌練習 歌唱(斉唱) 音部記号・調号・拍子記号 音符・休符について 音名の読み方・楽譜の読み方 長音階・短音階・和音・コードネーム	14	○	○	○	歌詞や音符、休符等の音楽記号、楽典についての理解ができているか
6~8月	器楽 テーブルパーカッション アンサンブル アルトリコーダー	クラッピング・カルテット CUPSを用いたグループアンサンブル 基本奏法、楽曲演奏、アンサンブル	16	○	○	○	リズムを正しく演奏できているか 個性を生かしてグループ活動ができているか
9, 10月	クラシックギター	基本奏法、チューニング、コード、楽曲演奏	14	○	○	○	正しい運指で楽譜を楽曲やコードを演奏できているか
11~1月	鑑賞	西洋音楽史、日本音楽、楽器分類学、ミュージカル	14	○	○	○	様々な音楽や楽器、ジャンルについて理解できているか
2, 3月	歌唱	混声合唱、合唱コンクールに向けて	12	○	○	○	歌唱活動に積極的に参加できているか

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
芸術	音楽Ⅱ	2単位	2・3年次	C群	
教科書	高校生の音楽 2				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)		音楽の諸活動とおして、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成するとともに、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むこと			

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
音楽についての基礎的な知識を習得すること。	音楽の歴史的・文化的背景を知覚し、生み出される音楽を感受すること	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
楽器演奏についての基礎的な技術を習得すること。	習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	生活の中で音楽を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
自ら感受したイメージや気持ちを、言葉で表すこと。	お互いの価値観や個性を認め、音楽の多様性を感じ取ること。	生涯をととして音楽を愛し、親しむ心を育む。
音楽の歴史的・文化的背景を理解すること。	鑑賞によって他者の良さを見つけ、自己の課題への創作意欲につなげられる。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4, 5月	楽典 ソルフエージュ テーブルパーカッション	1年次既習事項の復習	14	○	○	○	歌詞や音符、休符等の音楽記号、楽典についての理解ができているか
6~8月	グラスハープ 鑑賞 クラシックギター	音階について 作音 コード弾き、メロディ弾き	16	○	○	○	正しい音程で演奏できているか 個性を生かしてグループ活動ができているか
9, 10月	歌唱	外国語の歌唱	20	○	○	○	西洋音楽への理解、発音について理解できているか
11~1月	鑑賞 創作 文化箏	ポピュラー音楽史 前奏の創作と基本奏法	10	○	○	○	様々な音楽や楽器、ジャンルについて理解できているか 楽器の扱い方を理解し、音への興味が湧いているか
2, 3月	創作	動機に基づいた楽曲の創作	10	○	○	○	作曲法の仕組みを理解しているか

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
芸術	音楽Ⅲ	3単位	3年次	D4群	
教科書	Joy of Music (教育芸術社)				
副教材等	MUSIC NOTE				
① 科目の目標(学習指導要領)		音楽の諸活動とおして、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成するとともに、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むこと			

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
音楽についての基礎的な知識を習得すること。	音楽の歴史的・文化的背景を知覚し、生み出される音楽を感受すること	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
楽器演奏についての基礎的な技術を習得すること。	習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	生活の中で音楽を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
自ら感受したイメージや気持ちを、言葉で表すこと。	お互いの価値観や個性を認め、音楽の多様性を感じ取ること。	生涯をととして音楽を愛し、親しむ心を育む。
音楽の歴史的・文化的背景を理解すること。	鑑賞によって他者の良さを見つけ、自己の課題への創作意欲につなげられる。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
前期	楽典 ソルフェージュ	楽典の総復習 入試問題の演習と解説	90	○	○	○	楽典への理解 演習の取り組み状況
後期	創作 入試対策	プレゼンテーション資料の作成 実技練習 入試課題 コード伴奏に基づいた楽曲の創作		○	○	○	習熟度、進路別での取り組み状況

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
芸術	鍵盤楽器奏法	2単位	3年次	E群	
教科書					
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)		音楽の諸活動とおして、生涯にわたり音楽を愛好する心情と、音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、鍵盤楽器の演奏技術を身につける。			

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
音楽についての基礎的な知識を習得すること。	音楽の歴史的・文化的背景を知覚し、生み出される音楽を感受すること	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
楽器演奏についての基礎的な技術を習得すること。	習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	生活の中で音楽を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
自ら感受したイメージや気持ちを、言葉で表すこと。	お互いの価値観や個性を認め、音楽の多様性を感じ取ること。	生涯をととして音楽を愛し、親しむ心を育む。
音楽の歴史的・文化的背景を理解すること。	鑑賞によって他者の良さを見つけ、自己の課題への創作意欲につなげられる。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
前期	楽典 ピアノ基礎練習 楽曲の練習	習熟度に合わせた楽曲の選択 発表会	60	○	○	○	楽典への理解 演習の取り組み状況
後期	ピアノ基礎練習 楽器の構造 楽曲の練習	習熟度に合わせた楽曲の選択 発表会		○	○	○	習熟度、進路別での取り組み状況

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
美術	美術Ⅰ	2単位	1年次	B群	
教科書	美術Ⅰ 光村				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
① 造形的な見方・考え方価値観意識・人間性					
② 美術における基礎的技能					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
美術 I における創造的な見方・考え方を働かせることができた。	造形的な見方・考え方を働かせた主題の生成ができた。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
造形や美術を捉える視点について実感的に理解を深めることができた。	創造的な表現の構想を練ることが出来た。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
創造的な美術を表現するために必要な技能を身につけることができた。	造形や美術、文化などについて自分の価値意識を持って捉えることができた。	表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を養うことができた。
意図に合わせた材料や用具を用いて、創意工夫した表現力を身につけることができた。	課題における意味や価値を作り出す力を養うことができた。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目の1つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目	評価のポイント(規準)
				① ② ③	
4月	オリエンテーション	美術 I の1年間の授業内容を理解する。授業に必要な道具等を確認する。	1	○ ○ ○	1年間の授業内容及び必要な道具の理解。
5月	鉛筆デッサン	鉛筆でグレースケール作成後、材質や質感に注目し野菜や果物を描写する。	13	○ ○ ○	形を捉えることができているか。 観察力と質感の表現ができているか。 陰影表現ができているか。 丁寧に描写できているか。
	コラージュ	色画用紙を選択し、割り箸ペンで描いたクロッキー作品のコラージュをする。	6	○ ○ ○	色のバランスに気をつけて構成しているか。 自分なりの工夫をしているか。
6月	色彩について	色の3属性(色相・明度・彩度)の確認。色の特性について理解を深める。	4	○ ○ ○	色の特性についての理解。
7月 8月 9月	デザイン (平面構成)	3原色で色相環を制作する。 絵の具の使い方・混色方法について理解する。条件に従って、幾何形体による平面構成を行う。	12	○ ○ ○	色のバランス、グラデーション等の工夫ができているか。 入れるモチーフの配置や大きさを工夫しているか。 色・配置等全体のバランスが取れているか。
10月 11月	エコバッグ制作	原寸大のアイデアスケッチをもとにシートに写し取り、カッターで切り取り型を作る。布用絵の具で混色し、エコバッグに刷る。	13	○ ○ ○	型が綺麗にできているか。 正しい配色になっているか。 丁寧にムラなく彩色しているか。 狙った色を再現できているか。
12月	自画像 (油絵)	油絵の具の使用について理解し、キャンバスに下地塗りをする。	2	○ ○ ○	油絵用具の名称と使い方の理解ができているか。
1月 2月	油絵制作 (自画像)	油絵の具の特性を活かしながら、自分のイメージした自画像の制作をする。	17	○ ○ ○	量感の表現ができているか。 光と陰影の表現ができているか。 油絵の具の特性を掴み、自分なりに工夫しているか。 表情・質感の表現ができているか。 色の工夫や構図等全体のバランスが取れているか。
3月	鑑賞会	完成作品を並べ、作品の感想・反省点を発表しあう。	2	○ ○ ○	自らの作品の説明をわかりやすく行うことができるか。 他者の説明をしっかりと聴き学ぶことができるか。

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
美術	美術Ⅱ	2単位	2・3年次	C群	
教科書	美術2 光村				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
① 描写表現力の向上					
② 基礎的技能と経験を広げ、より深い美的感覚、創造的発想力、構想力を身につける。					
③ 制作と鑑賞を通し、主体的で個性的な表現力を身につける。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
美術Ⅱにおける創造的な見方・考え方を働かせることができた。	造形的な見方・考え方を働かせた主題の生成ができた。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
造形や美術を捉える視点について実感的に理解を深めることができた。	創造的な表現の構想を練ることが出来た。	主体的に造形的な見方・考え方を働かせることができた。
創造的な美術を表現するために必要な技能を身につけることができた。	造形や美術、文化などについて自分の価値意識を持って捉えることができた。	表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を養うことができた。
意図に合わせた材料や用具を用いて、創意工夫した表現力を身につけることができた。	課題における意味や価値を作り出す力を養うことができた。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目の1つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4月	オリエンテーション	美術Ⅱの1年間の授業内容を理解する。授業に必要な道具等を確認する。	1	○	○	○	1年間の授業内容及び必要な道具の理解。
5月	抽象画	線描から形をみつけて縁取り、抽象画のイメージをつける。 イラストボードに描画。 イメージを膨らませ着色する。	14	○	○	○	ランダムな線・図形でバランスよくデザインされているか。 様々な画材・素材の工夫がみられるか。形からのイメージを色彩に表現しているか。
6月							
7月							
8月	バラバラ漫画	ものが動いて見える仕組みを理解し、単語帳でバラバラ漫画を制作する。	14	○	○	○	動き・画面に工夫がみられるか。 描画が丁寧で滑らかな動きか。 ストーリーに工夫がみられるか。
9月							
10月	共同制作	グループに別れ、それぞれでテーマを設定し、テーマをもとに作品のかたちや材料を決定する。共同制作の難しさと楽しさを感じる。	13	○	○	○	計画性を持って制作に臨むことができているか。 テーマと作品のデザインにまとまりがあるか。 素材の良さを活かしているか。 素材の特徴を捉え、工夫した立体を構想できているか。
11月							
12月							
1月	絵画の中に入ろう(鑑賞)	図録や教科書から平面作品を選び、撮影した写真と組み合わせることによって新たな1枚を作り、鑑賞を行う。	8	○	○	○	作品から新たな発想を生み出し、創意工夫のある1枚となっているか。 全体のバランスが整っているかどうか。
2月	ふるさと和菓子	自分自身にとっての“ふるさと”について考え、それを和菓子として、他者の気持ちを考えながら具現化する。	8	○	○	○	表現したいモチーフから粘土の特性を考え制作に臨んでいるか。 バランス・細部など造形的な表現ができているか。
3月							

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
美術	美術Ⅲ	3単位	3年次	D群	
教科書	美術3 光村				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
① 幅広い創造活動を経験し、生涯に渡り美術を学び楽しむ姿勢を身につける。					
② 鑑賞を通して様々な個性を認め合うコミュニケーション能力					
③ 社会における美術の役割					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
美術Ⅲにおける創造的な見方・考え方を働かせることができた。	造形的な見方・考え方を働かせた主題の生成ができた。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
造形や美術を捉える視点について実感的に理解を深めることができた。	創造的な表現の構想を練ることが出来た	主体的に造形的な見方・考え方を働かせることができた。
創造的な美術を表現するために必要な技能を身につけることができた。	造形や美術、文化などについて自分の価値意識を持って捉えることができた。	表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を養うことができた。
意図に合わせた材料や用具を用いて、創意工夫した表現力を身につけることができた。	課題における意味や価値を作り出す力を養うことができた。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目の1つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
4月	オリエンテーション	美術Ⅲの1年間の授業内容を理解する。授業に必要な道具等を確認する。	1	○	○	○	1年間の授業内容及び必要な道具の理解。
5月	曲から広げる抽象画	好きな曲を1つ選び、イメージに添った色とカタチで表現する。描写表現にあった画材選択、技法の考案をする。	14	○	○	○	デザイン画を基に丁寧に描くことができている。 素材に自分なりの工夫がみられる。 抽象を意識した画面構成。
7月	洋菓子デザイン	自分自身にとってのふるさとを良さを見出し、樹脂粘土等を使い工夫を凝らした洋菓子のデザインを行う。	12	○	○	○	ふるさとを意識したデザインの工夫がされているか。 バランス、細部が造形的にできているか。 素材に自分なりの工夫が見られるか。
10月	名刺デザイン	自分についてもう一度見つめ考えなおし、様々な材料で名刺制作を行う。	16	○	○	○	自分の作りたいイメージから材料や素材の工夫を選択しているか。 素材や材料の特性を活かし、自分を伝える名刺デザインを構成しているか。 色、素材、かたちのバランスが取れているか。
11月	卒業制作	3年間で学んだ様々な技法を応用し、卒業制作を行う。(絵画・彫塑・デザイン・その他から自由選択)	17	○	○	○	美術科目で学んだことを活かし、自らテーマを決め制作に励むことができるか。
12月							
1月							
2月	鑑賞会	完成作品を並べ、作品の感想・反省点を発表しあう。		○	○	○	自らの作品の説明をわかりやすく行うことができるか。 他者の説明をしっかりと聴き学ぶことができるか。
3月							

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
美術	美術基礎	2単位	3年次	E2. E3群	
教科書	なし				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
① 美術の基礎的な知識と技術の習得					
② 制作を通じて集中力と根気を身につけ、鑑賞会を通じてコミュニケーション能力や個性、差異を認め合う力が身につく					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
美術基礎における創造的な見方・考え方を働かせることができた。	造形的な見方・考え方を働かせた主題の生成ができた。	美術の創造活動の喜びを味わうことができた。
造形や美術を捉える視点について実感的に理解を深めることができた。	創造的な表現の構想を練ることが出来た。	主体的に造形的な見方・考え方を働かせることができた。
創造的な美術を表現するために必要な技能を身につけることができた。	造形や美術、文化などについて自分の価値意識を持って捉えることができた。	表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を養うことができた。
意図に合わせた材料や用具を用いて、創意工夫した表現力を身につけることができた。	課題における意味や価値を作り出す力を養うことができた。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目の2つ以上を達成した	上記の項目の1つ以上を達成した	上記の項目について達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目	評価のポイント(規準)
				① ② ③	
4月	オリエンテーション	美術基礎の1年間の授業内容を理解する。	1	○ ○ ○	1年間の授業内容及び必要な道具の理解。
5月	鉛筆デッサン	材質や質感に注目し野菜や果物を描写する。	10	○ ○ ○	形を正確に捉えているか。 陰影を意識し、濃淡を調節できているか。 丁寧に鉛筆をはこんでいるか。
6月	クロッキー	短時間で人物の動きやリズムを掴み、画面に定着させるデッサンを行う。	8	○ ○ ○	動勢や比率など、対象の大きな特徴を捉えているか。 単純な線に置き換えることができたか。 諦めずに対象を描くことができたか。
7月	色彩の基礎	色の三属性、トーンについてワークシートを使いながら理解を深める。	5	○ ○ ○	色彩学について正しく理解し、明度トーンを把握しているか。
8月					
9月	自然物からの構成	自然物をひとつ選択し、配色を考えながら平面構成を行う。	9	○ ○ ○	大きさ、かたちに気をつけ自然物をバランス良く配置しているか。 自信のイメージにあった配色をしているか。 丁寧な色塗りができているか。
10月	グリザイユ	黒と白のアクリル絵の具による描写。石膏像もしくは写真をもとに下絵を転写し着色する。	13	○ ○ ○	黒・白・灰色を使つての立体表現ができているか。 絵の具を丁寧に塗り、作品の完成度を上げているか。
11月					
12月	歌詞コラージュ	コラージュに入れるモチーフを描画し、歌詞の一部を画用紙とコラージュする。	11	○ ○ ○	モチーフの表現 選んだ詩にあわせ、イメージにあわせてコラージュしているか。 コラージュ全体のバランスがとれているか。
1月	タイポグラフィーによるポスターハガキ制作	現代美術について理解し、文字ではがきの中をレイアウトする。	3	○ ○ ○	タイポグラフィーについて理解を深められたか。 テーマに沿って文字を構成することができているか。 テーマに沿って色の選択をすることができているか。

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
芸術	書道Ⅰ	2単位	1年次		
教科書	書道Ⅰ（教育出版）				
副教材等	硬筆レッスン帳				
① 科目の目標(学習指導要領)					
書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
漢字文化についての基礎的な知識を習得すること。	古典の臨書にあたり、その作品の制作意図、時代背景、書者の人間性などに思いを巡らすこと。	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組む。
書芸術についての基礎的な知識を習得すること。	臨書によって習得した知識や技能を駆使して自己表現すること。	読みやすく好感をもたれる文字を書こうとする意欲を持つ。
それぞれの古典作品の書法を習得・再現すること。	文字や書芸術の歴史を学ぶことで伝統や文化を尊重する心を育むこと。	生活の中で書芸術を身近に感じて楽しむ習慣を身につける。
意図に合わせた材料や用具を用いて創意工夫した表現力を身につける。	課題における意味や価値を作り出す力を養うこと。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目を1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目を2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目 ① ② ③	評価のポイント(規準)
4～7月	漢字の書	古典作品の臨書 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」「鄭義下碑」 「蘭亭序」「風信帖」	24	○ ○ ○	筆の持ち方、基本的な用筆法を習得できたか。 それぞれの古典の用筆法と書風の特徴をつかみ再現できたか。
8～9月	篆刻	落款と印の歴史について学び、自分の名の印を制作する	10	○ ○ ○	印の歴史に興味・関心を持ち、作品における落款の重要性を理解できたか。 手順通りに作業が進められたか。 篆書に興味を持ち、その歴史や用筆法を理解できたか。
10～11月	漢字の書の制作	好みの語句で創作をする	10	○ ○ ○	好みの語句に自分の思いや主張を託し、手本に頼らず制作できたか。
12月	生活の中の書	年賀状の制作 消しゴムはんこを作り、それを用いた年賀状を作る。筆記具は毛筆とする。	8	○ ○ ○	計画性を持って制作に臨むことができているか。 創意工夫をもって創作できたか。
1～2月	仮名の書	平仮名と片仮名の字源を知り、正しい形を学ぶ。平安朝の仮名作品を臨書する。	10	○ ○ ○	仮名文字の歴史に興味・関心を持ち、正しく臨書できたか。
2～3月	漢字仮名交じりの書	好みの詩文で創作する	8	○ ○ ○	テーマについて深く考察しているか。

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
芸術	書道Ⅱ	2単位	2, 3年次	C	
教科書	書道Ⅱ（教育出版）				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)		書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情			

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
文字や書芸術の歴史に関心を持つことができた	文字を造形的な視点で捉えることができた。	課題に対して真摯に向き合い、向上心を持って取り組むことができた。
各時代の表現方法や字体の変遷を知り、臨書学習によって再現できた	臨書学習によって習得した技能を用いて作品を制作できた。	漢字文化圏の伝統文化に関心を持つことができた。
様々な用具・用材の特性を知ることができた	様々な用具・用材の特性を生かして個性豊かな作品を制作できた。	生涯にわたり、生活の中で書芸術を身近に感じて楽しむ習慣を身につけることができた。
意図に合わせた材料や用具を用いて、創意工夫した表現力を身につけることができた	課題における意味や価値を作り出す力を養うことができた。	

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
②思考力 表現力	上記の項目の3つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった
③学びに向かう力	上記の項目の2つ以上を達成した。	上記の項目の1つ以上を達成した。	上記の項目を達成できなかった

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目 ① ② ③	評価のポイント(標準)
4～7月	漢字の書	篆書の臨書及びそれを用いた創作活動。隷書の臨書学習。	24	○ ○ ○	篆書及び隷書の用筆法を理解し再現できたか。 用具・用材の特性を生かし、個性豊かな作品を創作できたか。
8～9月	漢字の書	草書・行書・楷書の古典作品の臨書学習。漢字の書の創作。	14	○ ○ ○	それぞれの古典作品についての理解を深め、用筆法を習得できたか。 臨書学習の成果を生かし、創作できたか。
10月	漢字仮名交じりの書	テーマをもとに作品にしたい詩文を選び、これまでの学習を生かして独自の作品を制作する。	10	○ ○ ○	計画性を持って制作に臨むことができたか。 テーマについて深く考察しているか。 臨書学習の成果を生かしているか。
11月～12月	生活の中の書	年賀状の制作。墨流し・マープリングで作成した料紙に新年にふさわしい文字や詩文を書き入れる。	12	○ ○ ○	主体性を持って制作できたか。 作品に創意工夫が見られるか。
1月～3月	仮名の書	平安朝の仮名作品を臨書する。	10	○ ○ ○	連綿や散らし書きの技法を習得できたか。